

発行 宮崎県立高鍋高等学校 同窓会
宮崎県児湯郡高鍋町 大字北高鍋 4 2 6 2
TEL 0983・23・0005
FAX 0983・23・5096
URL http://www.narumigaoka.jp/

平成二十九年年度 OB祭実行委員長あいさつ

平成二十九年年度OB祭実行委員長

林 健太郎



まだ遠いと思っていたOB祭の担当も、いつの間にか月日は流れ、来年の8月には私たちの学年で担当させていただきます。平成29年度高鍋高校OB祭実行委員会を担当します。

私たちが過ごした高校時代には、バブル崩壊後の日本経済の不安定さや就職氷河期、スポーツではW杯サッカーアジア予選でのドーハの悲劇などを目の当たりにし、何かと暗いニュースが多かったように感じます。その中でサッカーのJリーグが開幕するなど、少しずつですが新たな事が始まりつつある年でした。

私自身、今年度のOB祭ゴルフコンペ、鳴海ヶ丘会総会、OB祭記念講演会及び懇親会まで参加させていただきましたが、皆様の母校に対する想いを感じ、改めて責任の重さを実感している所です。

私たちは、歴史ある高鍋高校の伝統を継承していかねばなりません。伝統とはただ引き継ぐだけでなく、自分達の思いもプラスし、その時代にあったものとして後輩に引き継ぐことだと思います。暗いニュースが多かった時代を過ごしてきた私たちがだからこそ、楽しむということを伝えたいと思います。

来年度のOB祭では参加していただける皆様に楽しんでいただけるように実行委員全員で努力致します。その中で担当する私たちも楽しむことができると考えています。最後にありますが高鍋高校及び鳴海ヶ丘会の更なる発展とご健勝を心から祈念しあいさついたします。

平成二十八年度 OB祭実行委員長あいさつ

平成二十八年度OB祭実行委員長

脇本 隆一



私たち平成28年度高鍋高校OB祭実行委員会(平成5年卒)は、「歩(YUMU)をテーマに掲げ、8月12日、13日の本番に向かって一歩一歩準備を進め、滞りなくOB祭を開催することができました。これも鳴海ヶ丘会の皆様や学校関係者、そして地域の方々の御支援、御協力によるものであると心より感謝申し上げます。さて、平成28年は、国内外で様々な出来事が巻き起こっています。

国際的には、難民問題、地域紛争や相次ぐテロ、そして北朝鮮による核実験や弾道ミサイル発射。暗いニュースに心を痛める日々が続く一方で、南米大陸初開催となるリオ五輪での日本選手団の活躍には、元氣・勇気・感動をもらいました。

そして国内では、4月に熊本県・大分県を中心に頻発した「平成28年熊本地震」。これも私たちにできることを、継続していかねばなりません。OB祭記念講演会の演題は、「継続する心」でした。プロ野球生活32年間をひとつの球団で活躍し続けた山本昌氏は、50歳まで職業選手として活躍してこられたホンモノの経験をお聞きすることができました。

また、オープニングイベントでの現役(高校生)とOB(川野みなみ氏(昭和43年卒)のコラボについても、多くの方から好評をいただきました。猛暑の中でのゴルフコンペも含めて、平成28年は私たちに忘れてはならない年になりました。

高鍋高校OB祭は、これからも歩み続けていくことでしょう。最後にりましたが、来年度の高鍋高校OB祭の成功と、高鍋高校並びに鳴海ヶ丘会の更なる発展を御祈念申し上げまして御礼の御挨拶いたします。

平成二十八年度 OB祭を終えて

事業推進局長

前田 智宏



今年度は私たちが平成5年度卒業生が担当させていただき、開催に当たり、昨年春より準備してまいりました。

私が担当した事業推進局の役割は、広報、協賛、記念講演チケット等の販売とOB祭の事業資金のほとんどを占めており不安しかありませんでした。販売部会、広報部会との二つの部会の部員を中心に他部門に加え、少しでも駆けつけてくれた同級生の協力により目標を何とか達成できました。ひとえにこれも地域の皆様や鳴海ヶ丘会会員の皆様のご協力によるもので、心より感謝を申し上げます。

OB祭に参加し、OB祭の成功を目標に一丸となり会議や体重も増量してしまいましたが、高校を卒業後、一人一人が歩んできた積み重ねが、OB祭という事業を通し、変わらぬ友情や新たな友情の芽生えるいい機会でした。県内の高校同窓会では珍しい事業ではありますがこれからも時代に合わせながら脈々と続いていく地域に愛されるOB祭であってほしいと願っています。

最後にりましたが、来年度の高鍋高校OB祭の成功と高鍋高校並びに鳴海ヶ丘会の皆様の今後益々の発展をご祈念申し上げます。お礼のご挨拶いたします。



各支部からの報告

関西同窓会報告

関西支部事務局

井川 恭子

平成28年7月28日(土)、ご来賓をはじめ79名が出席して第51回高鍋高等学校関西同窓会を道頓堀ホテルで開催いたしました。総会に先立ち増田秀文鳴海ヶ丘会会長、新しく着任された児玉康裕高鍋高等学校校長と貴安利近畿宮崎県人会副会長からご挨拶をいただきました。

第一部総会の議事では、平成27年度事業報告や会計報告、会計監査報告のあと、平成28年度の事業計画及び予算案が承認されました。

第二部の懇親会は、校歌斉唱で幕を開け、猪股先生からDVDを見ながらの近況紹介がありました。画像で見る母校の生徒たちの姿に、遠く過ぎ去った青春に思いを巡らせ、「瞬「歳」を忘れた気がいたします。今回平成28年

在京同窓会総会報告

在京同窓会 前事務局長

児玉 博

在京同窓会の第49回総会は、去る6月18日(土)、赤坂のホテルニューオータニで114名の出席者を得て開催致しました。

高鍋高校から、児玉校長先生と猪股先生、鳴海ヶ丘会本部から、増田会長、黒田監事、関西支部から井川事務局長のご出席がありました。加えて、前年度と今年度のOB祭実行委員の方達の18名が参加してくれました。

総会では、「会長選任」が議案として諮られ、8年間、会長を務めてこられた中野英樹(S30年卒)さんから、大澤忠廣さん(S32年卒)への会長交代が承認されました。大澤新会長からは、心強い決意表明があり、新しい体制での今後の会運営が期待されます。また、4月着任された、児玉

卒業の、生島絵美子さんが出席されました。明倫奨学金を受け関西の大学に通う純粋な彼女のおかげで会場が一段と明るく華やかになりました。この日は言うまでもありません。また、元宮崎県ラグビー協会会長の増田十郎様やラグビーOB会会長の石田喜克様のご臨席を賜り、ラグビー部の花園出場の期待も高まります。他支部からのご出席もあり、年齢の差をはねのけ大いに歓談できたことに喜びを感じています。本当にありがとうございました。

感謝申し上げます。「高鍋高校OB祭」実行委員のみなさんは元氣いっぱい。これからの活躍が目に見えるようでした。さらにさまざまな経験と自己研さんに励み、次代を担う原動力になっていただけると確信しています。



校長からは、学校経営の新しい抱負をお聞きし、増田会長からは、明倫奨学金の運営や、野球部強化の後援活動に対して私たちがOBへ協力の呼び掛けがありました。今回も、黒木本店、甲斐製茶、更には、都農役場等から、協賛の品を多数頂きました。それらの大半は、抽選会の賞品に使わせて頂き、会の盛り上げに大きく貢献してくれました。協賛企業の皆さんに心からお礼申し上げます。出席者数は、やや寂しいも

のでしたが、皆さん夫々が、会を満喫され、満足感に浸って帰路につかれたものと存じます。なお、来年の開催は、6月17日(土)を予定しております。お互い元気で再会致します。以上



部活動実績

Table with columns: 大会名, 競技・部名, 個人 or 団体, 競技種目, 成績, 学年, 氏名, 上位大会. Includes events like 第3回全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会 and 平成28年度宮崎県高等学校一年生大会.

Table with columns: 大会名, 競技・部名, 個人 or 団体, 競技種目, 成績, 学年, 氏名, 上位大会. Includes events like 平成28年度宮崎県高等学校新人総合体育大会 and 第38回宮崎県高等学校総合文化祭.

明倫奨学生近況報告

平成26年 奨学生 馬渡 大輝

大学生活の様子ということで今年度の前期についてまとめたいと思います。私の大学生活は主に学校と部活動とアルバイトによって成り立っているのですが、ここでは主に学校での学業についてまとめます。今期、私が履修したものは専攻科目として所属している学科特有の内容を学びました。その中でも、大きく講義形式のものを実験を行うものに分かれていて、講義形式のものについては、各分野の研究において必要な基礎的な知識や考え方を身につけて、実験では実際に手を動かすことにより現象の原理を目で確かめ、その誤差を検討する作業をしました。それぞれの具体的な内容については、ここで書くことが大変な量になるため割愛したいと思います。さて、今期はこのような学習をしたのですが、このことについて少し述べたいと思います。私の学科では10月からの後期に研究室の仮配置が決まります。ここでの研究室とは、来年度における卒業論文を書くための研究を行う研究室のことです。十数種類の研究室があります。仮配置が決まればその分野ごとにゼミ形式の学習が始まり、来年度に備えていくこととなります。したがって、来期の目標として、積極的な学習姿勢とスケジュール管理が挙げられます。前半は半分当たり前のことなのですが、今期の自分を振り返ると、授業に出席して試験を受けることしかしていません。学習をできればと頑張っています。後者については、研究を始めれば長期間にわたって一つのテーマを扱っていくことになるため、そこで必要な自己管理能力を身につけたいと思っています。以上が今期の大学生活の様子と来期以降の簡単な目標になります。3年生になり学部生活も折り返しが過ぎましたが、初心を忘れず勉学に励みたいと思います。

平成27年 奨学生 小松 愛沙美

二年になって前期が終わりました。大学にも慣れ毎日楽しく過ごしています。勉強の面では、一年の時は基本的な座学が多かったですが、一年になってからはより詳しくなり、実践的なものが増えてきました。演習では、相談援助に必要な技術を学んでいます。話し方やさまざまな場面での対応について学びました。クライエントを援助するために、まず自分がどういう者なのか知ることの大切さを学びました。しかし、すべてを知ることができないことも知りました。自分と他者の違いを知り、その違いを認め尊重し合うことが必要だと思いました。七月には、演習で学んだことを生かして実際に木城町でフィールド調査を行いました。話しを持っていく難しさを実感し、また学ぶことが必要だとも思いました。生活面では、一人暮らしも結構慣れてきました。忙しいと料理をしなくなりますが、将来のために今以上に料理をしたいと思います。アルバイトではかけ持ちをしています。一つは児童養護施設の学習支援のアルバイト、あと一つは接客業をしています。学習支援のアルバイトでは、自分で行ったこともそれを上手に教えないか？というように、日々考えながら行っています。接客業は、初めて不安もありましたが、今では慣れて最初より働けるようになってきました。お客様対応や覚えることが多かったです。人間関係など学ぶことが多くあります。勉強とアルバイトのかけ持ちはとても大変ですが、学ぶことも多く充実した日々を過ごしています。ボランティアにも参加し、将来の夢のために活動しています。後期も忙しいと思いますが、夢を叶えるために努力していきたいと思っています。

平成28年 奨学生 生島 絵美子

私が甲子園大学栄養学部栄養学科に入学して4ヶ月が経ちました。今までの近況を学校生活、私生活に分けて報告します。まず学校生活について。4月に入学式があり、いよいよ大学生活が始まるとわくわくした気持ちと不安が混ざった感じがします。しかし、友達もすぐにできてきました。大学は少人数制で2クラスに分かれていますが、私がいるXクラスは明るくてとても仲が良いです。クラスのみならず、充実に打ち解けたい、充実した日々を過ごせました。私は宮崎から一人での大学にきたので少し話し方がみんなと違っていましたが、むしろその方言に興味を持ってくれたので様々な話をすることができました。また、私は栄養学教員になるため教職の科目を履修することになりました。他の人よりも科目が多

多く大変ですが、毎回来しく講義を受けています。そして私は「甲友会」と呼ばれる生徒会のような組織に所属しています。そこでは主にオープンキャンパスのボランティアや文化祭の企画・実行を担当します。今年あったオープンキャンパスでは、ツアーガイドとして大学に来てくれた方々に校内を案内したり、自分の大学生活について説明をしたりしました。体験をする前までは進路決定に迷っていた方が体験を終えて、この大学を第一希望にしたいとアンケートに書いてくれたことがあり少しでも大学や訪問者の方に貢献できたと思います。嬉しかったです。オープンキャンパスが終わると次は文化祭が待っています。色んな企画を作り、盛り上げていきたいです。最後に私生活について。私は今神戸にいる叔父と2人暮らしをしています。叔父は仕事で忙しく私の方が先に帰ってくる機会が多いので夕飯は基本的に私が作っています。しかし、段取りが悪く、料理が出来上がるのにかなりの時間がかかってしまいうのでと改善できるように、これからも頑張りたいと思います。そして将来栄養管理士として働くためにも今のうち身に付けられるものをたくさん習得していきたいです。

九州大会を終えて

音楽部部長 奥松 愛結

今年度、音楽部は九州合唱コンクール宮崎県予選で金賞をいただき、九州大会へ進むことができました。この大会で得たものはたくさんあります。まずは、レベルの高い団体の演奏をたくさん聴けたこと。どの団体も上手で良い刺激を受けることができました。次に、この大会で引退してしまう三年生とのたくさん思い出ができたこと。この大会を通して先輩方の偉大さや、これから部を担っていくことへの責任感を感じることもできました。大会は惜しくも銅賞という結果でしたが、色々な事を学ぶことができずにはいられません。来年度は、色んな事に挑戦して、音楽部らしく、「楽しく」「日々邁進していこう」と思います。

高文祭を終えて

写真部 澤井 信保

私は、九月二十八日に都城の早水体育文化センターで開かれた、宮崎県高文祭写真部門に参加し、金賞を受賞しました。金賞を受賞したと知ったときは、とても驚き信じられませんでした。私は小さい子どもが好きでその作品も弟の運動会に来ていた小さい子を撮影した作品です。作品は、来年度の全宮崎県高等学校総合文化祭に出品します。全国大会に出品するのは初めての経験なのでとても緊張していますが、それと同時にうれし気持ちでいっぱいです。たくさん人の作品を見ることができ、色々な作品を頂いた上で、いろいろな作品をみて、今後にいかしていきたいと思います。

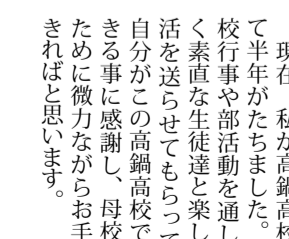
県高総文祭に参加して

JRC部部長 渡邊 真莉

私たちJRC部は、9月30日から10月1日にかけて開催された宮崎県高総文祭「国際・ボランティア」部門に参加してきました。スピーチコンテスト部門、研究発表部門、ポスター発表部門の3つの部門のうち、スピーチコンテスト部門と研究発表部門の二にエントリーして、スピーチコンテストでは奨励賞、研究発表では最優秀賞を受賞することができました。JRC部は毎年様々な活動や研修に参加していますが、「今度は、私たちが発信していこう」と話し合いました。夏休みから準備を始めましたが、鳴海ヶ丘祭と県高総文祭との準備が並行して忙しなながらも充実した時間を過ごすことができました。当日は講演会や分科会で、様々な活動を行っている人の話を聞きました。どの方も「自分のため」と楽しんで活動していらっしゃいました。私たちJRC部も楽しみなが活動を続けたいと思います。

なんきんはぜ

今年四月から母校である高鍋高校に勤務させていただいています。高鍋高校へ異動の知らせを聞いた時は、驚きと同時に喜びよりも不安の方が大きく、緊張していたような気がします。高鍋高校を三〇年前に卒業し、久しぶりに校舎に入りました。昔とあまり変わらない校舎でしたが、高鍋三年間の思い出が溢れるように蘇ってきました。あの教室で勉強したこと、友達と楽しく会話したこと、駆け足で掃除場所に行ったこと、恩師黒岩正春先生に三年間、ラグビー部でみっちり鍛えられたこと。それと、当時の厳しい英語の先生に言われた言葉で、いつもよく思い出すが、授業や試験がおろそかになっていった私を、職員室に呼び出し、「練習で疲れているのは分かる。だが、眠い目を擦りながら歯を食いしばって毎日机に向かうことが、今後のおまに必要なの。一番の頑張る力を付けてくれるのだぞ」と喝を入れてもらったこと（本気で叱っていたら当時のその先生に、本当に感謝・感謝です）等々。また他にも色々な思い出がありますが、今振り返っても、私にとっても高鍋高校の三年間は無駄なこと何一つありません。素晴らしい先生方や友人、先輩や後輩との出会い。高鍋高校で学んで本当に良かったことです。そう思うと、胸が熱くなり、母校に恩返ししたい気持ちで一杯になりました。四月の始業式、生徒と初めて対面しました。自分も着ていた懐かしい制服。校歌斉唱や迫力ある応援歌を生徒と一緒に大きな声で歌いました。歌いながらこの学校で今年から後輩のために母校のために精一杯頑張る覚悟を強く持ちました。現在、私が高鍋高校に赴任して半年がたちました。授業や学校行事や部活動を通して、明るく素直な生徒達と楽しく学校生活を過ごさせてもらっています。自分が高鍋高校で仕事ができる事に感謝し、母校の発展のために微力ながらお手伝いができればと思います。



(Y・Y)